

令和6年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立矢口中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・すべての学年において、問題演習の時間を多く確保し基礎知識の定着を図ることができた。
- ・習熟度別少人数授業を活用し、基礎的な問題の正答率を高めることができた。

(2) 課題

- ・すべての学年において「知識・技能」のポイントが高く、それに比べると「思考・判断・表現」観点のポイントはやや低い。「思考・判断・表現」の力を伸ばす必要がある。
- ・考えを分かりやすく伝える練習が必要である。話し合い活動を増やすことで、伝える力を育ませ、生徒の数学的表現力を養うことが必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	すべての領域で目標値を上回る結果であった。	/	/
第2学年	「関数」「データの活用」の領域で目標値を下回る結果であった。「比例・反比例」「データの分布の傾向」に課題がある。	ほとんどの領域で目標値と同じくらいの結果であった。特に、「小数・分数の計算」「面積と体積」に課題がある。(第1学年時)	/
第3学年	「図形」「関数」の領域で目標値を下回る結果であった。「1次関数」「図形の性質」に課題がある。	すべての領域で目標値を上回る結果であった。「空間図形」に課題がある。(第2学年時)	すべての領域で目標値を上回る結果であった。「小数・分数の計算」に課題がある。(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値、区平均ともに上回っている。基礎的な問題は正答率が高い。	目標値、区平均ともに上回っている。具体的に説明する問題に課題がある。	目標値、区平均ともに上回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値、区平均ともに上回っている。基礎的な問題の正答率が高い。	目標値、区平均ともに下回っている。1次方程式の文章題に課題がある。	目標値、区平均ともに下回っている。学習の取り組み方の振り返りに課題がある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区平均は上回っているが、目標値には到達できていない。	区平均は上回っているが、目標値には到達できていない。	区平均は上回っているが、目標値には到達できていない。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識・技能ともに達成値が高めである。今後も計算ミスを減らすため、基礎・基本の課題を増やして知識の定着を行う。	思考・判断・表現においては他の観点よりも課題がある。応用を求める課題を増やし、考察する時間を増やしていく。	既習事項から、様々な考えや解き方を導けるように、複数の解決方法がある場面では、共通点や相違点に着目させ、自分なりに考察する場面を多く設定する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
達成値は高めであり、基礎的な内容は定着している。今後も演習量を増やしながらか継続的な指導を行う。	1次方程式の文章題において、他の分野よりも課題がある。情報を整理して立式する等の復習を行う。	単元テストや定期考査の振り返りを通して、学習の取り組み方を工夫するよう指導する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「1次関数」「図形」の基礎的な問題に課題が目立つ。関数 $y=ax^2$ や円、三平方の定理の導入において適宜復習の時間を設定していく。	「連立方程式」の文章題について課題が目立つ。他の単元においても、文章題を取り扱う利用の場面で丁寧な解説、問題演習を増やしていく。	記述問題や照明問題など、既習事項を用いて数学的表現をする場面を多く取り入れていく。